



2020年2月期第2四半期

(2019年3月1日～2019年8月31日)

決算説明会

わらべや日洋ホールディングス株式会社

(2918)

2019年10月8日



2020年2月期第2四半期業績報告

および2020年2月期業績予想



2020年2月期第2四半期連結業績

(単位:百万円)

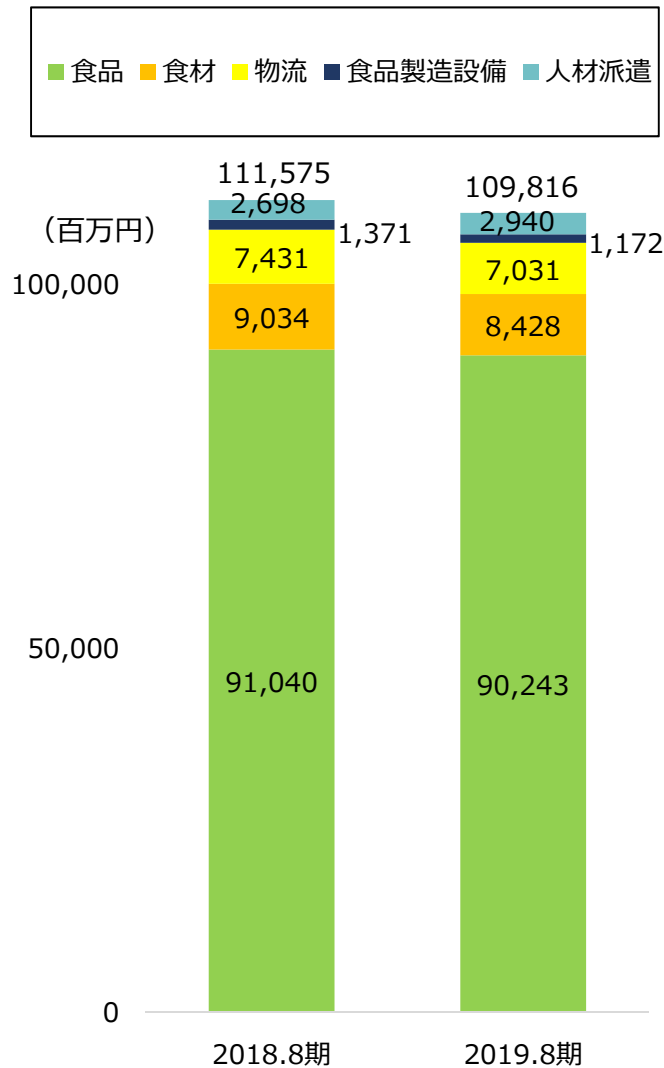
	2018.8期	2019.8期		前年 同期比	期初予想比
	実績	期初予想	実績		
売上高	111,575 (100.0)	112,000 (100.0)	109,816 (100.0)	△1,758 <△1.6>	△2,183 <△1.9>
営業利益	1,694 (1.5)	1,600 (1.4)	1,974 (1.8)	279 <16.5>	374 <23.4>
経常利益	2,011 (1.8)	1,860 (1.7)	2,118 (1.9)	107 <5.3>	258 <13.9>
四半期 純利益 (当社株主に帰属)	900 (0.8)	590 (0.5)	674 (0.6)	△226 <△25.1>	84 <14.2>
EPS(円) (当社株主に帰属)	51.33	33.61	38.40	△12.93	4.79

* () 内は売上比率 (%)、<> 内は増減率 (%)、期初予想は2019年4月12日発表の予想数値

セグメント別売上高の状況(前年同期比)

(単位:百万円)

* <> 内は増減率 (%)



	2018.8期	2019.8期	増減	増減要因
売上高合計	111,575	109,816	△1,758 <△1.6>	
食品関連	91,040	90,243	△796 <△0.9>	米飯群の販売減少
食材関連	9,034	8,428	△605 <△6.7>	鰻、鶏加工品の取扱高減少
物流関連	7,431	7,031	△399 <△5.4>	セブン-イレブン向け店舗配送の減少
食品製造設備関連	1,371	1,172	△198 <△14.5>	大型案件の受注減少
人材派遣関連	2,698	2,940	242 <9.0>	人材派遣、技能実習生関連事業の受注増加

セグメント別営業利益の状況(前年同期比)

(単位:百万円) * <> 内は増減率 (%)

	2018.8期	2019.8期	増減	増減要因
営業利益 合計	1,694	1,974	279 <16.5>	
食品関連	1,509	2,366	856 <56.7>	減収影響 △1.0億円 人件費増加 △3.9億円 水道光熱費、物流コストの増加、その他 △0.7億円 商品規格見直しによる改善 +8.0億円 生産性の向上 +3.0億円 前期特殊要因の解消 +2.3億円 海外 +0.9億円
食材関連	84	△87	△172 <△203.3>	棚卸資産評価損の計上(1.2億円)、販売減少
物流関連	48	3	△44 <△92.2>	売上減少、人件費上昇
食品製造 設備関連	345	△189	△535 <△154.9>	食品関連事業向け売上の減少、 一部債権に対する貸倒引当金計上(2.0億円)
人材派遣関連	183	63	△120 <△65.6>	食品関連事業向け売上の減少、人件費増加
全社費用・消去	△477	△180	296 <->	内部取引の減少

期初予想との差異要因

(単位:百万円)

	2019.8期		予想差異
	期初予想	実績	
売上高	112,000 (100.0)	109,816 (100.0)	△2,183 <△1.9>

【差異要因】

食品関連事業	△15.9億円
弁当・チルド弁当	△15.0億円
おにぎり・寿司	△6.0億円
その他惣菜	+6.5億円
食材関連事業	△5.3億円
物流関連事業	△2.2億円

(単位:百万円)

	2019.8期		予想差異
	期初予想	実績	
営業利益	1,600 (1.4)	1,974 (1.8)	374 <23.4>

【差異要因】

食品関連事業	+8.2億円
商品規格見直し	+4.0億円
生産性の向上	+3.0億円
海外事業	+1.5億円
食材関連事業	△1.8億円
棚卸資産評価損計上	
食品製造設備関連事業	△2.0億円
一部債権に対する貸倒引当金計上	

* () 内は売上比率 (%)、<> 内は予想比増減率 (%)、期初予想は2019年4月12日発表の予想数値

営業外損益・特別損益の状況(前年同期比)

(単位：百万円)

	2018.8期	2019.8期	増減
営業利益	1,694 (1.5)	1,974 (1.8)	279 <16.5>
営業外収益	484 (0.4)	418 (0.4)	△65 <△13.6>
営業外費用	167 (0.1)	274 (0.2)	106 <63.9>
経常利益	2,011 (1.8)	2,118 (1.9)	107 <5.3>
特別利益	126 (0.1)	- (-)	△126 <△100.0>
特別損失	706 (0.6)	664 (0.6)	△42 <△5.9>
税金等調整前 四半期純利益	1,431 (1.3)	1,454 (1.3)	23 <1.6>
法人税等合計	506 (0.5)	732 (0.7)	226 <44.7>
非支配者株主利益	24 (0.0)	47 (0.0)	23 <96.9>
四半期純利益 (当社株主に帰属)	900 (0.8)	674 (0.6)	△226 <△25.1>

2018.8期
特別損失 7.0億円
・わらべや日洋 事業用資産の一部減損 7.0億円

2019.8期
特別損失 6.6億円
・わらべや日洋 香川工場 減損 6.3億円

* () 内は売上比率 (%) <> 内は増減率 (%)

連結貸借対照表 (前期末比)

(単位：百万円)

【資産】	2019.2期	2019.8期	増減
流動資産	27,178	33,740	6,562
固定資産	57,457	53,941	△3,516
(有形固定資産)	(49,625)	(46,161)	(△3,463)
(無形固定資産)	(1,112)	(995)	(△117)
(投資その他)	(6,720)	(6,784)	(64)
資産合計	84,635	87,681	3,045

(単位：百万円)

【負債・純資産】	2019.2期	2019.8期	増減
流動負債	24,487	28,903	4,416
固定負債	15,906	14,713	△1,192
(有利子負債)	(14,176)	(12,182)	(△1,994)
負債合計	40,393	43,616	3,223
純資産合計	44,242	44,064	△177
(利益剰余金)	(28,254)	(28,220)	(△34)
負債・純資産合計	84,635	87,681	3,045

資産合計 – 約30億円の増加

- 流動資産(現金及び預金、受取手形および売掛金 等)の増加 : 約65億円
- 固定資産(建物及び構築物 等)の減少 : 約35億円

負債・純資産合計 – 約30億円の増加

- 流動負債(支払手形及び買掛金、未払金等)の増加 : 約44億円
- 固定負債(長期リース債務等)の減少 : 約11億円
- 純資産の減少 : 約1.7億円

連結キャッシュ・フロー計算書

	2019.8期
税金等調整前四半期純利益	1,454
減価償却費	2,738
売上債権の増減額 (△は増加)	△ 3,937
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△ 143
仕入債務の増減額 (△は減少)	2,154
未払金の増減額 (△は減少)	1,970
その他	1,755
小計	5,991
法人税等の支払額	△ 123
その他	253
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,122
有形固定資産の取得による支出	△ 1,219
有形固定資産の売却による収入	1,399
その他	78
投資活動によるキャッシュ・フロー	258
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,039
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 24
現金及び現金同等物の増減額	3,316
現金及び現金同等物の期首残高	2,439
現金及び現金同等物の期末残高	5,756

(単位：百万円)

2020年2月期 連結業績予想

期初予想から売上高を55億円減額、利益は期初予想を据え置き

(単位：百万円)

	2019.2期 実績	2020.2期 修正予想	増減
売上高	215,696 (100.0)	214,000 (100.0)	△1,696 <△0.8>
営業利益	1,526 (0.7)	2,500 (1.2)	973 <63.8>
経常利益	1,766 (0.8)	2,700 (1.3)	933 <52.8>
当期純利益 (当社株主に帰属)	610 (0.3)	700 (0.3)	89 <14.7>
EPS(円) (当社株主に帰属)	34.78	39.88	5.10
増減要因 (単位：億円)	◆売上高 … 食品関連事業の米飯群売上減、食材関連事業および物流関連事業の売上減 ◆営業利益 … 食品関連事業 +13.3億円、食品関連以外 △3.6億円 (詳細はP.18参照)		

* () 内は売上比率 (%)、<> 内は増減率 (%)、修正予想は2019年10月4日公表の予想数値



上期の進捗と今後の取り組み

上期の取り組み

外部環境が大きく変化

- 中食市場における競争激化
- セブン-イレブンの出店鈍化
- 米飯類のチルド化加速
- 人件費および物流費の上昇
- 原材料価格（コメ、海苔）の上昇

成長に向けた内部の課題

- 工場稼働率の向上
- 製造コスト増加への対応
- 成長地域／成長カテゴリーへの参入

持続的成長に向けた取り組み

1 国内既存事業の生産性向上、利益創出

取り組みが奏功、着実に利益回復

2 海外事業の拡大

売上、利益とも好調に推移

①国内既存事業の生産性向上、利益創出

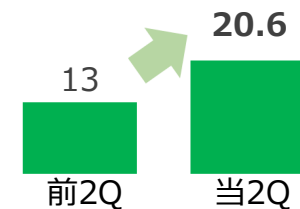
➤ 適正利益率の維持



材料、製法を見直し商品の価値を向上

交渉体制を継続
(リニューアル時など)

国内食品関連事業
営業利益（億円）



商品規格見直しにより、国内食品関連事業の営業利益は
前年同期比+8億円、利益率は+1pt

①国内既存事業の生産性向上、利益創出

➤ 生産体制再構築（収益構造の見直し）

- 要員適正化、派遣割合の減（前年同期比△4pt）
- 工程削減、効率化
- 省人化機械の導入
- 固定費削減

➤ 投資判断基準の精査

約3億円の生産性向上効果

①国内既存事業の生産性向上、利益創出

➤ 生産体制再構築（工場統廃合）

入間工場 2019年10月閉鎖予定

稼働：1992年8月
売上高：35億円（2019年2月期実績）
生産品目：惣菜

近隣工場へ
生産移管



赤字工場閉鎖による利益改善
移管先工場の稼働率向上、効率化

栃木工場 2020年2月閉鎖予定

稼働：1987年12月
売上高：34億円（2019年2月期実績）
生産品目：20℃弁当、おにぎり、寿司

2工場の閉鎖、生産拠点集約により
来期は約2億円の改善効果を見込む

①国内既存事業の生産性向上、利益創出

今後の取り組み

➤ 適正利益率の維持

- 利益率維持、向上（原価管理、生産管理）
- 価値ある商品の開発



味しみ鶏大根
338円（税別）

➤ 生産体制の再構築

- 工場統廃合の早期完遂
- 新規カテゴリー商品
(2019年9月 わらべや日洋(株)新規開発部を新設)

➤ グループ全体での利益創出

②海外事業の拡大

成長分野への経営資源投入を継続

➤ WARABEYA TEXAS (Prime Deliから社名変更)

北米における成功モデルの確立

開発 定番商品の品質向上 (朝食メニュー、サンドイッチ)

⇒上期の販売食数は前年同期比 +10%

新商品の継続投入 (ホットケース用商品)

生産 新商品発売時、販促時の生産体制を確立
現地従業員への生産ノウハウ落とし込み



(単位:千ドル、%) * <>内は増減率

TEXAS	2018.12期 2Q累計	2019.12期 2Q累計	2019.12期 通期予
売上高	11,192	14,303 <27.8>	26,529 <9.5>

➤ 北京旺洋 (持分法適用外)

(単位:千元、%) * <>内は増減率

旺洋	2018.12期 2Q累計	2019.12期 2Q累計	2019.12期 通期予
売上高	58,756	68,239 <16.1>	141,455 <12.9>

➤ WARABEYA USA

(単位:千ドル、%) * <>内は増減率

USA	2018.12期 2Q累計	2019.12期 2Q累計	2019.12期 通期予
売上高	18,459	19,351 <4.8>	38,501 <4.0>

通期予想の修正について

(単位：億円)

	2019年 2月期	2020年 2月期 期初予想	2020年 2月期 修正予想
連結売上高	2,156	2,195	2,140
前期比増減	△34	+39	△16
連結営業利益	15.2	25	25
前期比増減	△22.0	+9.7	+9.7

**商品規格見直し、生産性向上が寄与
前期比増益を計画**

営業利益増減	期初予想	修正予想	差異	差異要因
売上高増減影響	+3.6	△1.7	△5.3	国内食品関連事業の減収
人件費	△8.1	△7.5	+0.6	派遣割合の減少
商品規格見直し	+9.6	+15.0	+5.4	期初計画を上回る
生産性向上、経費削減	+1.1	+6.0	+4.9	労務管理徹底、機械化による省人化
工場再編	—	△4.3	△4.3	栃木工場閉鎖
海外、食品関連以外	+3.4	+2.2	△1.2	海外事業好調、食材関連事業で評価損計上、 製造設備関連事業で貸倒引当金計上
計	+9.7	+9.7	—	

* 期初予想は2019年4月12日発表、修正予想は10月4日発表の予想数値

グループ理念

私たちは「安全・安心」と「価値ある商品・サービス」の提供を通じて、

お客様の**健康で豊かな食生活**に貢献します。

経営理念

お客様のニーズを追求し、変革を推進します。

コンプライアンスを実践し、透明性の高い経営を行い、

社会から信頼される企業を目指します。

人を育て、働きがいのある、環境にやさしい企業を目指します。

